/J\LX.	工業高等	専門学校	開講年度 令和04年度 (2	2022年度) ‡	受業科目 🗄	システム設計論 I			
科目基礎		<u> </u>							
付け基礎: 1月報 科目番号 0017				科目区分	専門 / 必修	専門 / 必修			
<u></u>		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科		システムぽ	創成工学専攻(情報システムコース)	対象学年	専1				
開設期		前期		週時間数	2				
教科書/教林	材	適宜資料	を配付する						
担当教員		上野 秀剛							
到達目標	Ę								
3.システム	ℷがユーザの)要求や設計:	を把握し,整理・選択する能力を身に ようなシステムを設計する能力を身に を満たしていることをテストする能力 くントを作成する能力を身につける.	つける. つける. を身につける.					
ルーブリ	リック			.					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1			システムに対する要求を要求仕様書にまとめることができる.	要求仕様書からシステムに対する 要求を理解することができる.		要求仕様書の内容を理解したり記述することができない.			
評価項目2			システムの設計を示したシステム 設計書を作成できる.	システム設計書からシステムの設計を理解することができる.		システム設計書の内容を理解したり記述することができない.			
評価項目3			システムに対する適切なテストを 設計できる.	テスト仕様書からシステムのテスト方法について理解することができる.		テスト仕様書の内容を理解したり 記述することができない.			
学科の到	」達目標項	目との関	 係						
) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) 学習・教育目標 D-1 システム創成工等	4*************************************	***				
		ョフロクラム:	子省・教育日標 D-1 システム創成工学	*教育フロクラム学習・	教育目標 D-2	<u>'</u>			
教育方法	等	1							
概要		本講義でし	の開発にはどのようなシステムが求め 対する理解が必須である. よシステム開発の上流工程である要求 方法について学習する.	抽出と仕様化,システ <i>1</i>	ムの設計, お。	こび仕様・設計に基づいたシステム			
授業の進め	方・方法	複数の学	生でグループを組み、演習を通じて要	求仕様書,システム設計	書,テスト作	上様書を作成する. また, 各ドキュ			
		関連科目	複数の学生でグループを組み,演習を通じて要求仕様書,システム設計書,テスト仕様書を作成する.また,各ドキュメントに対して相互にレビューを行い改善する. 関連科目 ソフトウェア設計,情報工学基礎論,システム設計論 II						
		学習指針 1つのシス							
注意点		事前学習 講義資料は事前に配布するので、あらかじめ読んでおくこと.							
		 事後展開学習 講義後にグループ単位で各ドキュメントを作成し、期限までに提出すること。							
				し,期限までに提出する	3こと.				
学修単位	 Zの履修」	講義後に		し, 期限までに提出する	3こと.				
		講義後に の注意			3こと.				
講義後に作	F成する各ト	講義後にから の注意 キュメント:	グループ単位で各ドキュメントを作成		3こと.				
講義後に作 授業の属	F成する各ト 性・履修	講義後に <u> </u> の注意 	グループ単位で各ドキュメントを作成	作成・提出すること.	3こと.	□ 実務経験のある教員による授業			
講義後に作 授業の属	F成する各ト 性・履修	講義後に <u> </u> の注意 	グループ単位で各ドキュメントを作成 が成績評価の主たる要素なので,必ず		5こと.	□ 実務経験のある教員による授業			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後に <u> </u> の注意 	グループ単位で各ドキュメントを作成 が成績評価の主たる要素なので,必ず	作成・提出すること.	5こと.	□ 実務経験のある教員による授業			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後に の注意 キュメント: 8上の区分 こング	グループ単位で各ドキュメントを作成 が成績評価の主たる要素なので,必ず	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応	5こと.	□ 実務経験のある教員による授業			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後にたいます。 講義後にたいます。 この注意 ドキュメント: 	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので,必ず ☑ ICT 利用 授業内容	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご	との到達目標				
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後にたいます。 講義後にたいます。 この注意 ドキュメント: 	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので,必ず	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発	との到達目標 のプロセスモ				
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後に 講義後に この注意 ドキュメント 	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発・	との到達目標 のプロセスモ: いて理解する				
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後に 一の注意 キュメント 多上の区分 こング 週 1週 2週	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発。	との到達目標 のプロセスモ: いて理解する 油出,要求の	デル, ドキュメンテーション, レビ			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各ト 性・履修 ・イブラーニ	講義後に 一の注意 キュメント 下・キュメント 下・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発・コーフ・ 要求・る 仕様	との到達目標 のプロセスモ いて理解する 油出,要求の 書を作成する	デル, ドキュメンテーション, レビ			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に 二の注意 キュメント: ター ター ター ター ター ター ター	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発。 ここの 要求。 る 仕様	との到達目標 のプロセスモ: いて理解する 油出,要求の 書を作成する 書を作成する	デル, ドキュメンテーション, レビ トリアージ, 要求の仕様化を理解す			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に この注意 ドキュメント: 逐上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週 5週	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 過ご 開発・コーローのである。 位様 仕様 仕様	との到達目標 のプロセスモニ いて理解する 油出,要求の 書を作成する 書を作成する 書に対するレ	デル, ドキュメンテーション, レビ トリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる			
講義後に作 授業の属 □ アクテ	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に この注意 ドキュメント: 医上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので,必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発・コーロー 要求・ る 仕様 仕様 大態	との到達目標 のプロセスモー いて理解する 油出,要求の 書を作成する 書を作成する 書に対するレ 圏移図,I/F定	デル, ドキュメンテーション, レビ トリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる 、義, データ定義, 回路図を理解する			
講義後に作授業の属 アクテ 授業計画	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に 一の注意 キュメント 多上の区分 シグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発・コーロ ・フェース・ ・ 仕様 ・ 仕様 ・ 仕様 ・ 大態・・ シス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	との到達目標 のプロセスモー いて理解する 油出,要求の 書を作成する 書を作成する 書に対するレ 遷移図,I/F定 テム設計書を	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる 義, データ定義, 回路図を理解する			
講義後に作 授業の属 □ アクテー 授業計画	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に でかける ボキュメント 下キュメント アング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書 システム設計書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発・コーローの求る 仕様 仕様 大態 シス・シス・	との到達目標 のプロセスモー いて理解する 油出,要求の 書を作成する 書に対するレ 遷移図,I/F定 テム設計書を テム設計書を	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる (義, データ定義, 回路図を理解する) 作成する			
講義後に作 授業の属 □ アクテー 授業計画	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に この注意 ドキュメント 逐上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発・コーン・要る ・仕様 ・仕様・大態・シス・シス・ブラ	との到達目標 のプロセスモー いて理解する 抽出,要求の 書を作成する 書に対するレ 遷移図,I/F定 テム設計書を テム設計書を テムン設計書で テムンでである。	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる ・義, データ定義, 回路図を理解する 作成する 対するレビューを行い, 改善できる			
講義後に作授業の属口アクテー授業計画	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に 二の区分 エメント アナク フク フク フク フク フク フク フク	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス システム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書 システム設計書 システム設計書 システム設計書	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発。 」に 要る 仕様 仕様 大比様 シスス・ シスス・ フスト	との到達目標 のプロセス・ かて理解する 曲出, 要な 書を作成する 書を作成する 書を作対する との との との との との との との との との との	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる (義, データ定義, 回路図を理解する 作成する 対するレビューを行い, 改善できる イホワイトボックステスト, 網羅テ			
講義後に作授業の属口アクテー授業計画	成する各ト <u>保性・履修</u> イブラーニ 」	講義後に 講義後に エメント: マース アース	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発して である。 位様 位様 大大態 シスス ・シスス ・フスト テス	との到達目標 のプロセスる 計曲出, 要求する 書を作成するレ 悪移図, I/F定 テム設計書を テム設計書を テム設計書を テムカボックる と と と と と と と に と に と に と に と に と に と	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる で義, データ定義, 回路図を理解する 作成する 作成する 対するレビューを行い, 改善できる /ホワイトボックステスト, 網羅テ 成する			
講義後に作 授業の属 □ アクテー 授業計画	F成する各 h 属性・履値 イブラーニ	講義後に 講義後に コメント マースター フラック コリー 1週 コリー 1週 コリー 1週 コリー 10週 コリリー 11週 コリリー 11週 コリリー	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用	作成・提出すること. ② 遠隔授業対応 週ご 開発った。 では、 は様 仕様 仕様 大状態。 シス・シス・フスト・テスス・テス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・	との到達目標 のプロセス る 計曲出, 要求 する 書を作成する 書を作成するレ 悪移図, I/F定 テム設計書を テム設計書を テム設計書を テムサウス を理解書を トナリク電解書を トナリケス トナ トナリケス ト ナナ トナリケス トナ トナリケス ト ナ トナリケス トナリケス トナリケス トナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる (義, データ定義, 回路図を理解する 作成する 作成する なする 対するレビューを行い, 改善できる ノホワイトボックステスト, 網羅テ 成する 成する			
講義後に作授業の属口アクテー授業計画	成する各ト <u>保性・履修</u> イブラーニ 」	講義後に 講義後に コルストラード ファイン	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンスシステム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書 システム設計書 システムフスト システムテスト	作成・提出すること. 図 遠隔授業対応 週ご 開発 コに マス 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	との到達目標 のプロセスモー のプロセス まする 書を作成する 書を作成するレ 悪移図, I/F定 テム設計書を テム設計書を テム投票計書に テム投票者を テム投票者を テム投票者を テム投票者を テム投票者を テム大力でする。 ト仕様書に対	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ビューを行い, 改善できる 議, データ定義, 回路図を理解する 作成する 対するレビューを行い, 改善できる /ホワイトボックステスト, 網羅テ 成する 或する			
	成する各ト <u>保性・履修</u> イブラーニ 」	講義後に 講義後に この注意 1 1 回 1 1	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンスシステム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書 システム設計書 システム設計書 システムフスト システムテスト システムテスト システムテスト システムテスト	作成・提出すること. 図 遠隔授業対応 週ご 開発 口に 要る 仕様 仕様 仕様 大悲 シス・ラトス テスス テェス 東雪 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世	との到達目標 のプロセス る のプロセス するの 書を作成するレ 書を作成するレ を作成するレンシアクス をからいまままって アンク理解書書に アンク理解書書に アンク理解書書に アンク理解書書に アンク性様書また。 ト仕様書に アントとしたシア	デル, ドキュメンテーション, レビトリアージ, 要求の仕様化を理解す ごューを行い, 改善できる 義, データ定義, 回路図を理解する 作成する 付成する がするレビューを行い, 改善できる			
講義後に作授業の属口アクテー授業計画	成する各ト <u>保性・履修</u> イブラーニ 」	講義後に 講義後に この注意 1 1 回 1 1	グループ単位で各ドキュメントを作成が成績評価の主たる要素なので、必ず 図 ICT 利用 授業内容 ガイダンスシステム開発概要 要求仕様書 要求仕様書 要求仕様書 システム設計書 システム設計書 システム設計書 システムフスト システムテスト	作成・提出すること. 図 遠隔授業対応 週ご 開発 口に 要る 仕様 仕様 仕様 大悲 シス・ラトス テスス テェス 東雪 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世	との到達目標 のプロセス る のプロセス するの 書を作成するレ 書を作成するレ を作成するレンシアクス をからいまままって アンク理解書書に アンク理解書書に アンク理解書書に アンク理解書書に アンク性様書また。 ト仕様書に アントとしたシア	ビューを行い, 改善できる 「義, データ定義, 回路図を理解する」 作成する 作成する 対するレビューを行い, 改善できる /ホワイトボックステスト, 網羅テ 成する 成する 成する するレビューを行い, 改善できる			

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル 授業週				
評価割合									
	ドキュメ	ント作成	レビュー会	発表	合計				
総合評価割合	70		20	10	100				
基礎的能力	30		10	10	50				
専門的能力	30		10	0	40				
分野横断的能力	10		0	0	10				